

⑩日本国特許庁

⑪実用新案出願公開

公開実用新案公報

昭53-76031

⑫Int. Cl.<sup>2</sup>  
B 42 F 13/00

識別記号

⑬日本分類  
117 C 212

庁内整理番号

6777-25

⑭公開 昭和53年(1978)6月24日

審査請求 有

(全 2 頁)

⑮ファイル装置

⑯実 願 昭51-158879

⑰出 願 昭51(1976)11月27日

⑱考 案 者 熊谷武司

東京都世田谷区経堂1丁目1番  
11号

同 河西兼光

⑲出 願 人 熊谷武司

東京都世田谷区経堂1丁目1番  
11号

同 河西兼光

川崎市高津区菅生1539番地

⑳代 理 人 弁理士 佐々木功

㉑実用新案登録請求の範囲

- (1) 背袋紙に適宜間隔をもつて穿設した複数個の透孔を有する表紙体と、その表紙体の各透孔をそれぞれ上方に貫通する係止部を複数個備えてなる綴り体と、その綴り体の各係止部を挿通してファイル用の紙葉、袋体等止着用係止部通板とからなるファイル装置。
- (2) 前記綴り体の係止部は、長手方向両側部より立設して互いに対向配置にしてあることを特徴とする登録請求の範囲第1項記載のファイル装置。
- (3) 前記綴り体の係止部は一体に形成するリング

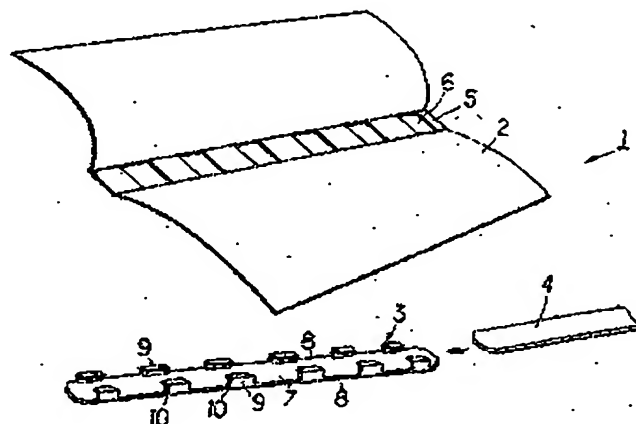
であることを特徴とする登録請求の範囲第1項記載のファイル装置。

図面の簡単な説明

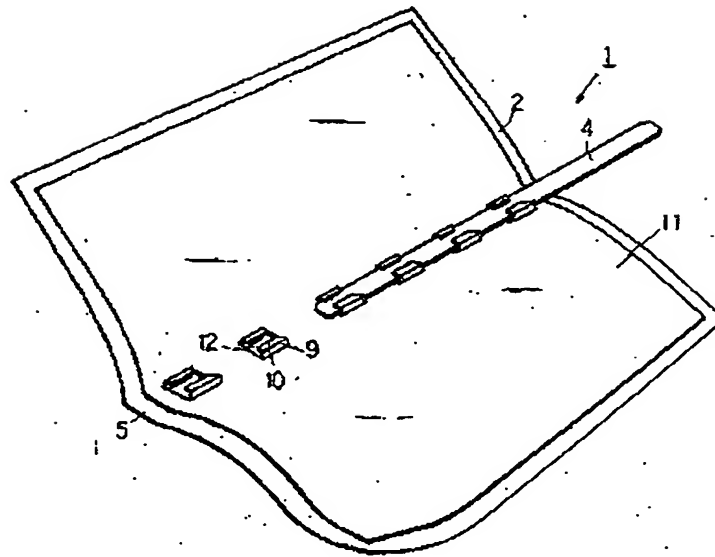
図面は本考案の実施の一例を示すもので、第1図はファイル装置の分解斜視図、第2図は装着状態を示す斜視図、第3図は他の実施例の部分斜視図である。

1……ファイル装置、2……表紙体、3……綴り体、4……係止挿通板、5……背袋紙、6……透孔、9……係止部、10……折曲片、11……袋体、12……袋体の透孔。

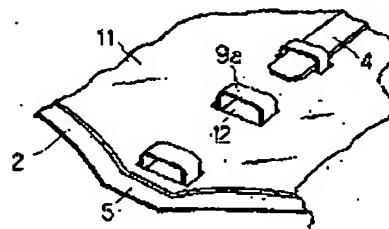
第1図



第2図



第3図





実用新案登録願(2)(後記号なし)

昭和51年11月27日

特許庁長官 殿

適

1. 考案の名称

ファイル装置

2. 考案者

実用新案登録出願人と同じ

3. 実用新案登録出願人

東京都世田谷区経堂1丁目1番11号

ヤマダ 谷 武 司 (外1名)

4. 代理人 〒104 東京都中央区銀座8丁目9番6号

第2千成ビル6階

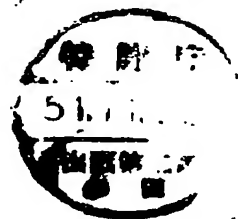
(6317) 弁理士 佐々木 功

電話代表 (571) 4686

5. 添付書類の目録

(1)	明細書	1	通
(2)	図面	1	通
(3)	願書副本	1	通
(4)	委任状	2+	通

51 158879



## 明 細 書

### 1. 考案の名称 ファイル装置

### 2 実用新案登録請求の範囲

1. 背表紙に適宜間隔をもつて穿設した複数個の透孔を有する表紙体と、その表紙体の各透孔をそれぞれ上方に貫通する係止部を複数個備えてなる綴り体と、その綴り体の各係止部を挿通してファイル用の紙葉、袋体等止着用係止挿通板とからなるファイル装置。
2. 前記綴り体の係止部は、長手方向両側部より立設して互いに対向配置にしてあることを特徴とする登録請求の範囲第1項記載のファイル装置。
3. 前記綴り体の係止部は一体に形成するリングであることを特徴とする登録請求の範囲第1項記載のファイル装置。

### 3. 考案の詳細な説明

本考案は、ファイル装置の改良に関する。

従来ファイル装置は、ファイル用綴じ具を表紙の背部に固着し、そのファイル用綴じ具をバネや楔子作用により開閉せしめるようにしたものが

一般的であつた。

しかしながら、従来の綴じ具にあつてはその開閉機構の複雑さ故に部品点数がどうしても多くならざるを得ず、従つて故障が多く、乱暴に扱うとその使用寿命を著しく減じていた。また、長期間の使用により表紙が汚れたり、破損する場合があるが、従来品の綴り具は表紙に固着されたものであるために表紙だけの交換はできず、同様に綴じ具だけの交換もできないものであつた。

そこで本考案は、フアイルする際に複雑な開閉装置を用いることなく、簡便に操作でき、構成部品を少なくして個々の部品の低廉化、交換性の容易化を図るとともに製作も簡単にできるフアイル装置を提供するものであり、その特徴とするところは背表紙に適宜間隔をもつて穿設した複数個の透孔を有する表紙体と、その表紙体の各透孔をそれぞれ上方に貫通する係止部を複数個備えてなる綴り体と、その綴り体の各係止部を挿通してフアイル用の紙葉、綴体等止層用係止挿通板とからなるフアイル装置に存する。

以下に図面を参照して本考案の一実施例を説明する。

図中 1 は本考案に係るファイル装置であり、このファイル装置 1 は共に合成樹脂からなる表紙体 2、綴り体 3、および係止押通板 4 とから構成されている。

表紙体 2 にはその背表紙 5 に等間隔をもつて複数の透孔 6，6・・・が列設されており、その背表紙 5 の外側面に綴り体 3 が取り外し自在に備えられている。この綴り体 3 は長尺板 7 の長手方向の両側部 8，8 に立設する複数個の係止部 9，9・・・を備えている。この係止部 9，9・・・は長尺板 7 の一側部 8 に等間隔をもつて列設し、他側部 8 にも同様に等間隔に列設して、且つ両側部 8，8 の係止部 9，9 同志は互いに対向配置に形成されている。係止部 9 の先端は、長尺板 7 の内方稍下向きに折り返して形成された折曲片 10 を一体に備えている。

この綴り体 3 の互いに対向する一对の係止部 9，9 は前述した表紙体 2 の背表紙 5 に設けた一つ

の透孔 6 に対応するようにしており、従つて各々対になつた係止部 9、9 は背表紙 5 の各々の透孔 6、6 ……より上方に貫通するように形成されているものである。

また、上述の綴り体 3 の互いに対向する一対の係止部 9、9 は第 3 図に示すように連結してリング 9 a として成形してもよいものである。

本考案に係るファイル装置 1 はかかる構成となつており、表紙体 2 に綴り体 3 を装着後、ファイル用の袋体 1 1 を綴るものである。即ちこの袋体 1 1 は透明な合成樹脂製からなつており、その中央部の上下方向に透孔 1 2、1 2 ……を前述した表紙体 2 の透孔 6、6 ……に相応させて穿設している。この透孔 1 2、1 2 ……に表紙体 2 と同様に綴り体 3 の係止部 9 を差し込んで上方に貫通させ、綴るようになつている。この場合本考案の実施例では袋体を用いてあるが、ファイル用の紙葉を用いても勿論よいものである。

係止押通板 4 は長尺状の板材に形成され、ファイル用の袋体 1 1 を綴り、その透孔 1 2、1 2 ……

…から貫通した綴り体3の各々対になつている係止部9, 9間に挿し込むことにより、袋体11を表紙体2とともに綴り体3に止着する。このとき係止部9の折曲片10は係止挿通板4を上面から押え、その脱着を防止している。

本考案は上述の如く構成され、単に透孔を設けた表紙体と係止部を備えた綴り体とをもつてファイル用の袋体、紙葉等を綴り、その袋体等を唯の板材である係止挿通板により係止部に引掛けて止着するようにしている。従つて複雑な機構をもたせることなく確実に止着できるうえ、例えば表紙が破損した場合にあつてもその破損した表紙のみを交換することができるものである。

また、各構成部材は構造が簡単であり、各々の製作も容易となつているために、低廉に、しかも大量に生産でき得るものであり、従来のファイル装置にはない効果を奏するもので、その実益的価値は甚だ大である。

#### 4. 図面の簡単な説明

図面は本考案の実施の一例を示すもので、第1



図はフアイル装置の分解斜視図、第2図は装着状態を示す斜視図、第3図は他の実施例の部分斜視図である。

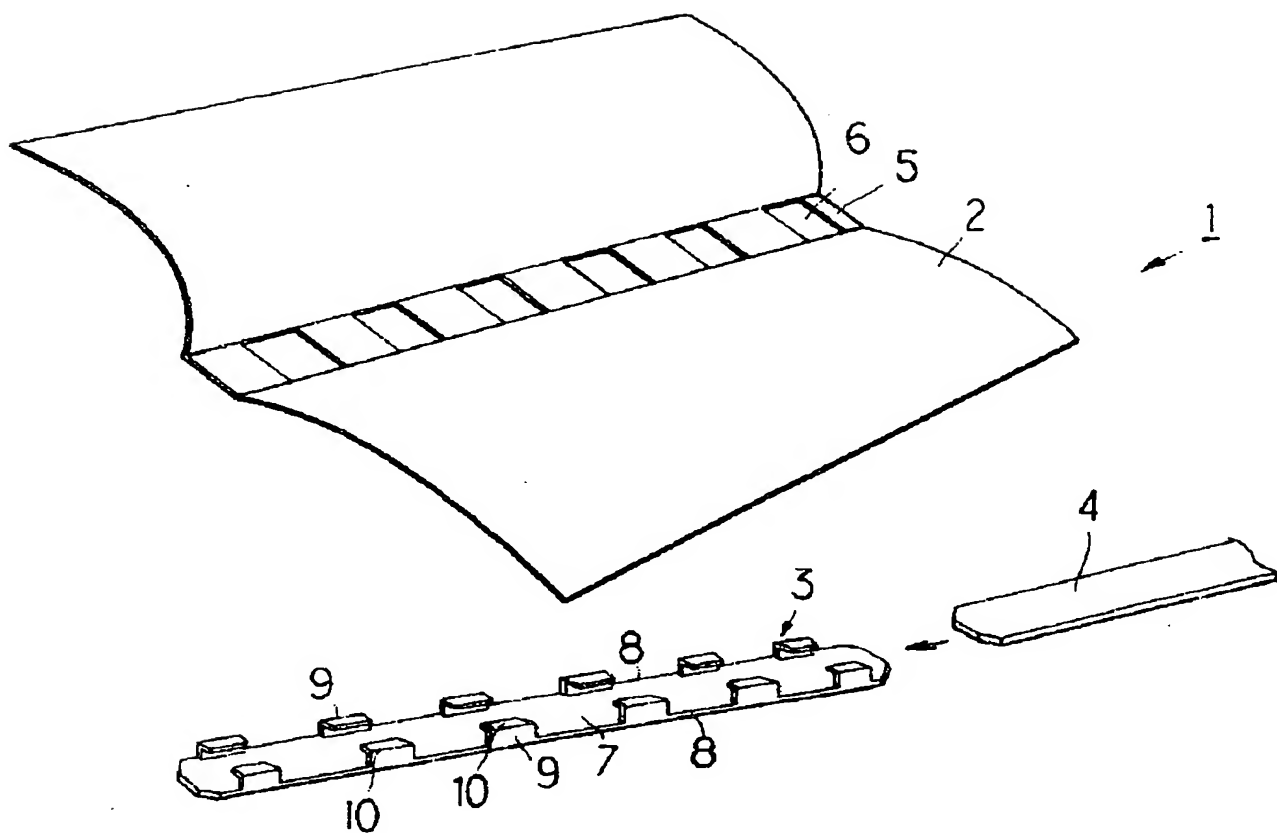
1 ……フアイル装置、2 ……表紙体、3 ……緩り体、4 ……係止押通板、5 ……背表紙、6 ……透孔、9 ……係止部、10 ……折曲片、11 ……袋体、12 ……袋体の透孔。

実用新案登録出願人 熊 谷 武 司

同 河 西 兼 光

代理人 弁理士 佐々木 功

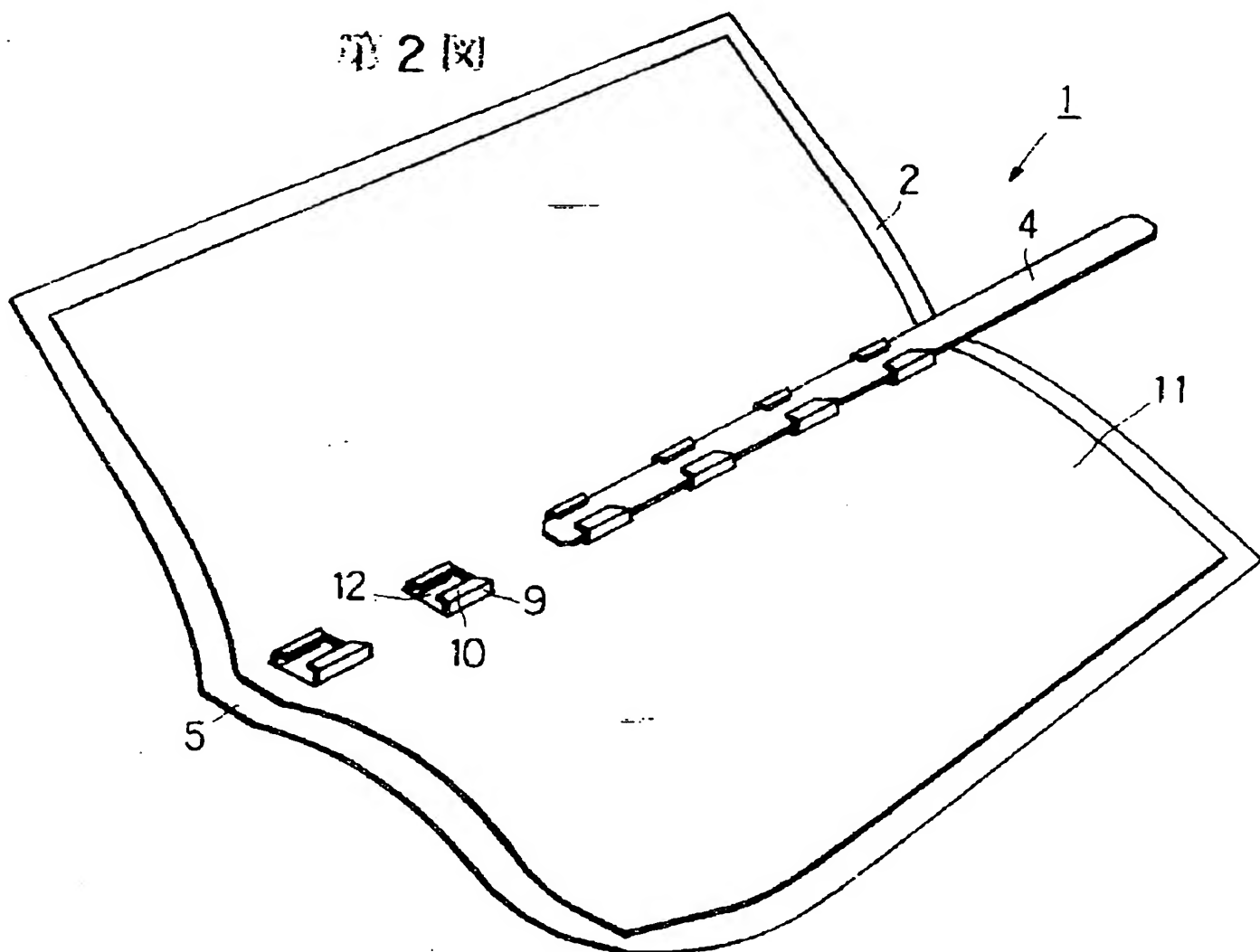
14



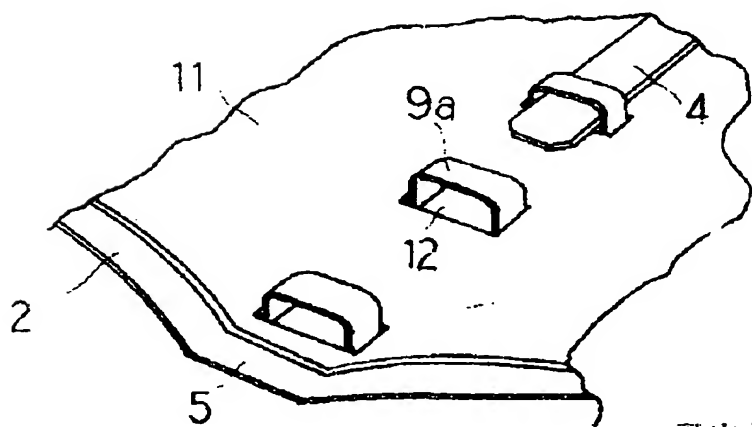
4031 1/2

司 武 谷 德  
忙 素 酒 河  
理 奉 公 行

第2図



第3図



2/2

要出部  
代理人 片堀上  
篠須 佐  
谷西 本  
武兼  
司光

6 前記以外の出船人

カワサキ シタカフ クスダオ  
神奈川県川崎市高津区菅生1539番地

カワ ニシ カネ ミツ  
河 西 兼 光